

# 令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：27516

学校名：星置東小学校

	令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	○全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている ・握力 ・反復横とび ・立ち幅とび ○全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている ・上体起こし ・長座体前屈 ・50m 走 ・ソフトボール投げ	○全国平均より下回っている ・20m シャトルラン	・瞬発力や敏捷性は全国平均をやや上回っており、基礎的な運動能力は備わっている。一方で、持久力や体幹筋力、柔軟性に課題が見られ、それが走力や投力にも影響していると考えられる。
体力・運動能力 <女子>	○全国平均より上回っている ・反復横とび ○全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている ・握力 ・50m 走 ・立ち幅とび	○全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている ・上体起こし ・長座体前屈 ・20m シャトルラン ・ソフトボール投げ	・反復横とびにおいて全国平均を上回っており、敏捷性や調整力の高さが見られる。また、走力や跳躍力、筋力についても概ね良好であり、基礎的な運動能力は身につけている。一方で、体幹筋力や柔軟性、持久力にやや課題が見られ、これらが投力にも影響していると考えられる。
運動・スポーツへの意識 運動習慣	授業に「いつも進んで参加している」と答えた男子は64.2%（全国59.6%）と全国を上回っている。また、体育が「楽しい」と答えた女子は67.6%に達し、全国平均（56.9%）を大きく超えている。	運動やスポーツを「ささえる（教え合いやサポート）」ことへの興味は、男子が19.3%（全国26.2%）、女子はわずか5.7%（全国16.8%）と、全国平均を大きく下回っている。	・運動を「する」ことへの関心が高い反面、ボランティアやサポート側への意識が希薄であることが顕著な課題といえる。授業内での相互評価や補助活動を充実させ、「ささえる」ことの楽しさを実感させる工夫を行っていく必要がある。

<b>三つの取組</b>	<b>①体育・保健体育等の授業の充実</b>	<b>②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組</b>	<b>③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組</b>
--------------	------------------------	------------------------------	----------------------------

<b>具体的な取組</b>	<p>○児童が、授業の「目標（ねらい・めあて）」を意識し、「できた・わかった」を実感できるような授業づくりに取り組むとともに楽しく学習できる指導法を共有する。また単元の中でAARサイクルを意識した授業づくりを行っていく。</p> <p>○鉄棒週間・跳び箱週間・マット運動週間を設定し、全学年同時に実施することで、用具の出し入れなどの時間を省き、実際の活動時間を増やす。</p> <p>○タイムシフトカメラ機能の活用や録画した動画の再生速度を遅くすることで、動きの見える化を図る。そうしたタブレット端末を効果的に活用した体育学習に取り組む。</p> <p>○タグラグビー教員研修（北海道ラグビー協会）を通して、楽しい体育授業につなげる。</p>	<p>○グラウンドにドッジボールコート常設したり、竹馬や一輪車を使用できたりするようにし、運動する環境を整え、運動する機会を増やすようにする。</p> <p>○跳び箱週間・マット運動週間中は、休み時間も体育館を開放し、継続して運動ができるようにする。</p> <p>○3年生以上が3種目（50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ）の体力テストを実施し、記録できるカードに記入することで、自分の成長を感じ、向上を図ろうとする思いを生む。</p> <p>○冬季も雪山やグラウンドを活用するなどして、運動できる場を充実させる。</p> <p>○外部講師（ダンスチーム活用事業・アスリート講師派遣事業等）を積極的に活用し、運動機会の創出を図る。</p>	<p>○保健便りや給食便り等で健康や食について、家庭に発信し、学校と家庭とが連携して、児童の指導に当たれるようにする。</p> <p>～年間を通した発達段階に応じた計画的な指導～</p> <p>☆「心の指導」：健康に過ごすためには、心理的な面も大切であることを学ぶとともに、相手に対する思いやりの心を育む。</p> <p>☆「いのちの学習」：命の大切さを学ぶとともに、男女にはからだの特徴や発達段階などに違いがあるが、互いの人格を尊重し合うことが大切であることを知り、相手を思いやる心情や態度を育む。</p> <p>☆「食指導」：児童一人一人が正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に付け、食事を通じて自らの健康管理ができるようにする。</p> <p>○産婦人科医・助産師等派遣やがん教育における外部講師の派遣を依頼し、性や命に関する講話を聞き、学習を深める。</p>
---------------	---	---	--

<b>家庭・地域との連携・協働</b>	<p>○「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果を活用する。 ○小中一貫した教育の一環として、走り方教室や部活動見学に参加する。</p> <p>○学校評議員会・学校関係者評価等を活用する。 ○スキーインストラクター派遣や保護者ボランティアを募り、学習の充実を図る。</p>
---------------------	---

